

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自ら考え、挑戦し続ける子ども」 ～チャレンジ桜井～

- 【知】 目標に向かい、自ら考え粘り強く学び、豊かに表現する子を育てます。
- 【徳】 礼儀や規律、人とのかわりを大切にし、児童が互いを大切にできる心を育てます。
- 【体】 望ましい生活習慣を身につけ、自分の心と体を鍛え、健康と生命を大切にすることを育てます。
- 【公】 横浜を愛し、地域とふれあい、人・もの・ことを大切に、進んで社会にかかわる子を育てます。
- 【開】 視野を広げ、様々な課題に気づき、主体的に考え行動しようとする子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈表現力〉
〈自分づくりに関する力〉

具体化した資質・能力

中期取組目標

- 1 学校教育目標を実現するために、児童のチャレンジを支え、教職員もチャレンジし続ける学校づくりをめざします。
○児童の表現力を高めるとともに、主体的・対話的で深い学びのできる授業改善に努めます。(算数科の研究を通して)
○教職員が人権意識を高め、自分も他の人も大切にできる心を育み、「ひとりの子どもを大切にすること」を常に心がけます。
○教職員が互いに研鑽、連携、協力できる運営組織の確立と、風通しの良い職場づくりをめざします。
- 2 地域や保護者と連携、協働して、社会に開かれた教育課程の実践をめざします。(学校運営協議会の効果的な運営)

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	○算数科の重点研究を通して、めざす追求・表現する姿を明確にして、支援のあり方を研究し実践を重ねる。 ○教師一人一人が目標をもち、授業力向上をめざす。
担当	重点研究部

学力向上に関わる本校の状況

- (1) 問題解決力、主体性
○重点研究で、授業改善に取り組み、課題設定の工夫をすることで、意識は高まってきている。
●課題を把握するのに時間のかかる児童が多い。
●問題解決型の学習に慣れていない。
●総合的な学習の時間、特別活動の充実

- (2) 自分の考えを表現する
○重点研究で、授業改善に取り組み、系統を意図して学習することで、表現力が少しずつ身につけてきている。
●語彙力の不足
●コミュニケーション能力
●自尊心

- (3) 基礎、基本の学習内容の定着
○学年共通して、漢字・計算のドリル学習、音読、読書などの家庭と連携を図り、継続して取り組んでいる。
○市学習状況調査の結果は、ほとんどの項目において市の平均を満たしている。
●思考・判断・表現においては、市の平均を満たしていない学年がある。
●算数の図形領域においては、どの学年も市の平均を満たしていない傾向にある。

今年度の目標

○算数科の重点研究を中心として、「課題解決力」や「表現力」を高める手立てのあり方を研究する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 「課題解決するための方法やめざす具体的姿」「自分の考えを表現するための方法やめざす姿」
○研修を計画的にし、教員の授業力向上を目指す。(重点研推進委員が中心となり、課題設定や具体的手立てについて適宜お知らせを出す。)(研修計画を立てる。)
- 「学習の手引き」の研修を行い、共通理解を図る。(研修会の実施、学級備品の充実)
- 教育課程の見直しを長期休暇前に学年ごとに行う。(有効な手立てや本校の具体的A規準を評価規準ファイルに書き込む。)(学習暦の書き換えをする。)
- (特別活動や総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し、加筆・訂正を行う。)
- 市学習状況調査の結果を各学年で分析し、学年経営に生かす。
- 掲示板の充実(学年・教科等の担当する掲示板を割り当て、活用の計画を立てる。)

- 研修を計画的にし、教員の授業力向上を目指す。(重点研推進委員が中心となり、課題設定や具体的手立てについて適宜お知らせを出す。)(研修のまとめをする。)
- 「学習の手引き」の反省する。(学校評価による見直しを各担当ごとに行い、来年度に向けて改善を図る。)
- 教育課程の見直しを長期休暇前に学年ごとに行う。(有効な手立てや本校の具体的A規準を評価規準ファイルに書き込む。)(学習暦の書き換えをする。)
- (特別活動や総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し、加筆・訂正を行う。)
- 市学習状況調査の結果からの取り組みを学年ごとに戻す。(学年経営案に加筆)

- 研修を計画的にし、教員の授業力向上を目指す。(重点研推進委員が中心となり、課題設定や具体的手立てについて適宜お知らせを出す。)(研修のまとめをする。)
- 「学習の手引き」の反省する。(学校評価による見直しを各担当ごとに行い、来年度に向けて改善を図る。)
- 教育課程の見直しを長期休暇前に学年ごとに行う。(有効な手立てや本校の具体的A規準を評価規準ファイルに書き込む。)(学習暦の書き換えをする。)
- (特別活動や総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し、加筆・訂正を行う。)
- 市学習状況調査の結果からの取り組みを学年ごとに戻す。(学年経営案に加筆)

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①個々の違いに気づき、認め合うことから、他者への思いやりの心を育成する学びを継続して推進していく。 ②道徳の学習を充実させ、日常の生活にある効果的な教材を通して、自分も相手も大切にすることができるようにする。
担当	人権・道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

豊かな心に関わる児童の実態
○全体的には、落ち着きがある。学校で積極的に挨拶ができる児童も多い。どの学級においても、友だちの意見を受け入れようとする雰囲気がある。

低学年
○ルールを守ろうとする姿勢や気づいていない友だちにやさしく声をかけてあげる姿が増えた。
○友だちの様子に合わせて行動したり、思いやりをもって一緒に行動したりするやさしい姿が増えた。
●自分が言いたいことややりたいことが先行してしまい、相手のことを思いやれないことがある。自分の行動を振り返るものを見方を育てることを引き続き行いたい。

中学年
○やるべき事を理解し、チャレンジしようとしている。○相手を思いやり、やさしい言葉をかけられている。
●自分とは違うと思い、排他的になってしまったり他者を受け入れられなかったりする姿が見られる。友だちのいいところを見つけ、認め合えるような関係を作れるような活動を増やしていく必要がある。
●自分勝手な行動をすることがあるので、「集団の一員である自覚」をもてるように指導していく。

高学年
○挨拶が習慣化してきている。
○友だちどうし教え合ったり、協力し合ったりすることができている。
○いろいろな事に挑戦しようという意欲が出てきた。
●「素直な気持ちで落ちを認める。」「自分の気持ちをコントロールをする。」面での指導の必要がある。
●「お互いの考えや意見を認める態度」が育つと、人間関係がよくなると思われる。

今年度の目標

自分の気持ちや考えを言葉で伝え合い、考えを広げたり、自分の行動を改善したりすることができる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- いじめアンケートと教育相談を活用し、児童が身近な大人に相談しやすい体制づくりを行う。
○Pを活用し、よりよい人間関係を築くために社会的スキルを身につけられるようにする。
○道徳学習の中で多面的なものの見方を身につけられるようにする。
○音楽集会で他の学年の友だちよきに気づく。
○異学年との交流を図るたわりグループ活動、児童会活動、クラブ活動を充実させ、仲間意識を育てる。
○毎月、児童理解の時間を設け、見守っていききたい児童の現状、支援の方向性の共通理解を図る。
上記の事柄を適宜で行う。

- 人権週間における全校での人権課題について考える学びの実施。
○講話・道徳(人権)・全校ビデオ視聴し、人権感覚を養う。
○人権作文に全員が取り組み、発表することで、自らの人権感覚を見つめ直そうとする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①家庭と連携し、規則正しい生活習慣の取組を継続していく。健康課題については学校保健委員会で取り上げ、子ども自身が健康意識を高め、主体的に健康づくりができるようにする。②体力向上を図るために、毎週水曜日に35分の昼休みを設定し、運動時間を確保する。
担当	保健・体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態
○生活リズムについては、概ね整っている児童が多いが寝寝時間が遅い児童がいる。
○健康診断では視力が低下している児童が増加傾向にあり、学年が上がると割合が増加している。iPadなどの使用増加などもあり、使用する際の姿勢や時間などについても指導していく必要がある。
○精神面で安定している児童がほとんどであるが、自己肯定感が低い児童もいる。そうした児童への支援や見守りを関係機関と連携しながら行っていく。
○走能力(50m走)、瞬発力・跳能力(立ち幅とび)で、本校の記録が市の平均より上まっている。
○筋力(握力)、柔軟性(長座体前屈)、投能力・巧み性(ソフトボール投げ)は、平均をほとんどの学年が下まわりの課題がある。運動する機会の減少や自宅で過ごす時間が増えたことが子どもの体力に影響していると考えられる。

今年度の目標

○元氣キッズ桜井」をテーマに健康課題について学校保健委員会で取り組み、心と体の健康を守りながら健康を意識した生活ができるようにする
○体育委員会が主体となって、運動が苦手な児童でも運動することを好きになるような取組をしてい

目標を実現するための具体的行動プラン

- 全校で年3回生活リズムカードを実施し、家庭と協力しながら健康な生活に対する意識を高めていく。
○学校保健委員会で「姿勢」について取り上げ、授業中やiPadの使用時など、生活の中で良い姿勢を意識して生活できるように、自分やクラスでできることを考え、実践につなげていく。
○健康課題については、ほけんだよりなどを通して家庭への働きかけや、情報発信を行っている。○新体力テストの結果をもとに、どの運動能力に課題が学校としてあるのかを明確にする。そして、職員・保護者・児童全員に共通で知らせ、課題意識を共有する。
○1時間の授業の中で、ふりかえりの時間を十分に確保し、児童一人ひとりがより課題解決に向けた思考ができるようにする。
○みんなが慣れ親しんだ音楽とともストレッチができるような運動を考え、全校に周知する。

- 毎月クラスで決めた保健目標のふりかえりを行い、健康な生活に対する意識を高めていく。
○学校保健委員会や保健委員会の活動を通して正しい姿勢で生活することの大切さを伝えていく。
○運動が苦手な児童に対して、運動することを好きになってもらえるようなレクを体育委員会児童で企画・運営をする。
○体力向上とクラス一丸となって協力し運動する姿をねらった「キラキラタイム」を実施する。長期的に実施、練習できるようにする。